

---

 学 会 記 事
 

---

## 第 259 回新潟外科集談会

日 時 平成 16 年 12 月 4 日 (土)  
午後 1 時～午後 4 時 29 分  
会 場 新潟県医師会館  
大講堂 (3F)

## 一 般 演 題

## 1 腹壁に穿通した S 状結腸憩室炎の 1 例

林 香織・長谷川 潤・塚原 明弘  
三井 匡史・坂本 薫・木村 愛彦  
遠藤 和彦

秋田組合総合病院外科

近年、本邦においても大腸憩室症は増加してきており、外科治療を必要とする症例が多くなってきた。今回、我々は S 状結腸憩室炎が腹壁へ穿通し、待機的手術を行い軽快した一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症例は 68 歳、男性、2004 年 4 月下腹部痛にて当院受診、CF にて大腸憩室多発。5 月上旬より左下腹部に熱感を伴う腫瘤を自覚、徐々に増大したため腹部 CT 施行、同部位の腹壁に air および abscess を認め、直下に壁肥厚のみられる腸管を認めた。大腸憩室炎の腹壁穿通と考え、絶食、抗生剤にて保存的治療を行った。腫瘤は縮小し炎症所見の改善がみられ、2 週間後に手術施行。S 状結腸が腹壁に癒着し穿通、膿瘍腔を形成しており、S 状結腸部分切除およびドレナージ術を行った。術後経過良好で 23 病日に退院した。

## 2 腸重積をきたし肛門より脱出した S 状結腸癌の 1 例

外山 美紗・小海 秀央・矢島 和人  
桑原 明史・谷 達夫・飯合 恒夫  
岡本 春彦・畠山 勝義

新潟大学医歯学総合病院第 1 外科

症例は 82 歳の男性。主訴は肛門からの腸管脱出、肛門痛、肛門出血、下痢、食思不振。8 年前に S 状結腸腫瘍を先進部とする直腸脱があり近医受診。腫瘍の生検では管状腺腫の診断。その後、症状出現せず自己判断にて通院中断。2004 年 10 月末より上記症状出現。10 月 29 日、当科外来紹介入院。結節集簇型腫瘍を先進部とする肛門からの腸管脱を認めた。重積の整復が困難なため緊急手術を施行。S 状結腸腫瘍を先進部とした腸重積症で、腸重積を整復したうえで Hartmann 手術を行った。術後経過は良好で、第 29 病日退院となった。成人腸重積症の頻度は少なく、大腸では悪性腫瘍が先進部となることが多い。肛門外脱出症例は約 40 例と比較的稀であるので報告した。

## 3 人工肛門癌の 3 例

太田 一寿

太田西ノ内病院外科

〔症例 1〕82 歳女性。昭和 46 年 1 月下行結腸癌にて下行結腸切除、同 3 月縫合不全にて横行結腸双口式人工肛門造設した。平成 9 年 8 月、人工肛門から出血あり、硬結を触れ、生検で癌の診断で入院し 11 月 10 日手術を行った。

〔症例 2〕59 歳男性。昭和 50 年頃 Male's 手術、平成 2 年 10 月上行結腸癌にて右半結腸切除術試行した。平成 10 年 2 月より人工肛門から出血あり、腫瘍を認め、生検で癌の診断で入院し 4 月 27 日手術を行った。

〔症例 3〕86 歳男性。昭和 50 年頃 Male's 手術を行った。平成 15 年 12 月頃より人工肛門から出血あり、ストーマ外来にて腫瘍を指摘され、入院し平成 16 年 1 月 28 日手術を行った。

造設後 20 年以上経過し、出血を主訴に発見された人工肛門癌 (進行癌) 3 例を経験した。造設